

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ニコニコキッズこあ			
○保護者評価実施期間	2024年12月23日 ～ 2025年1月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数)	28
○従業者評価実施期間	2024年12月23日 ～ 2025年1月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月23日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・集団生活で苦手な事を、小集団活動の中で取り組み自信をつけられるようにしている。運動の活動の中に、静と動の区別をしており、身体を動かす時間、静かに過ごす時間のメリハリが身についてくる。運動に特化している。	・利用者が伸び伸びと過ごす時間と活動に集中できる時間としっかり分けている。利用者のその時の様子によって個別での対応などもできるように配慮している。活動やプログラムにこだわりすぎないようにしている。	・支援者の分散（支援者が同じ利用者だけに関わらないようにしている。支援者全員が一人一人を見ていることが分かるぐらい対応している。）
2	・園での過ごし方と差が出ないようにしている。園の先生方との連携をこまめに図っていることもあり、利用者のその時の状況によって支援方法を変えることができている。	・最近の園での様子や、自宅での様子は出来るかぎり聞くようにしている。様子によっては、支援者同士でどうしていくのか話し合っ、情報の共有をしている。	・こあでの活動だけではなく、定期的に屋外活動や鹿屋市の施設（アイランドスポーツキタガワ、イオン、公園、健ブラ）などを活用している。社会性や人間関係、コミュニケーション能力なども伸ばしていく。
3	・小集団活動の中でも、利用者のニーズに合わせて個別での対応もすぐにできるようにしている。	・利用者の表情や機嫌、話の中での困り感などにすぐに気付けるようにしている。気になったことは支援者同士で共有している。	・スタッフ共有のボードに書き込んだり、休みの人も分かるように会社のラインに記録を残す。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・机上課題での療育的知識。	・療育専門の教材活用が少なく、知識不足な部分もある。	・常にスタッフが研修等を通して、学ぶようにしている。
2	・幅広い家族支援	・送迎サービスにおいて、園への送り迎えがほとんどということもあり、保護者と直接話し合う機会が限られてしまう。メールや電話でのやりとりの対応となってしまうことが多い。	・定期的に事業所側が開催する保護者会等に多くの保護者が参加できるように働きかけ、家族支援の充実化を目指す。 ・保護者の迎えの際は、児童の情報共有ができるように心がけ、保護者が悩みを引き出せる機会を提供していく。
3	・		